

# 学士課程の教育方法(授業改善・ 評価等)の在り方

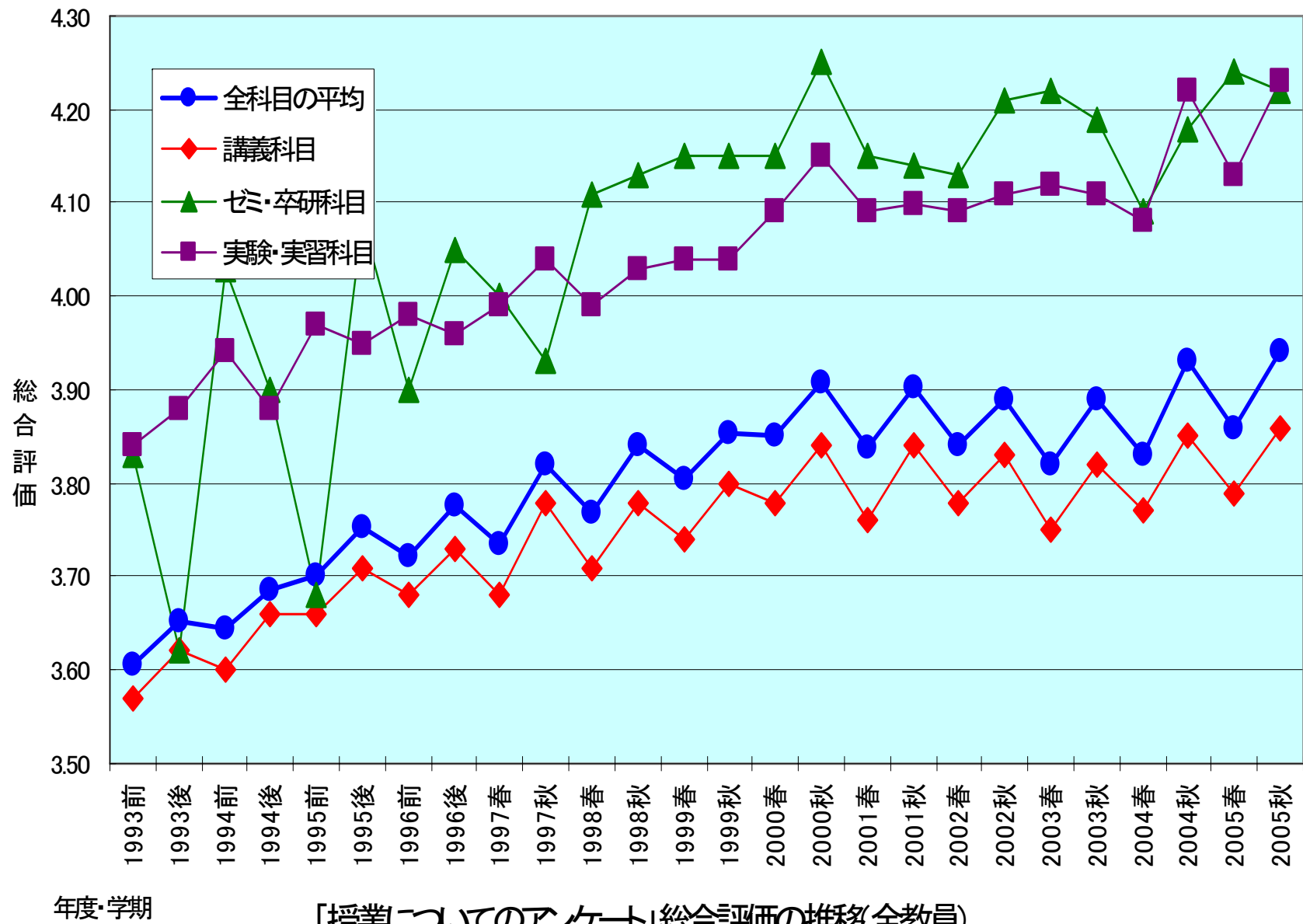
東海大学理学部教授

教育研究所所長

安岡 高志

# 授業評価の性質

- 1 学生の成績、在学年数、学問的能力と授業評価の結果は無関係
  - 2 受講者数30名以下で高くなる
  - 3 担当科目・年度が変わっても安定
  - 4 文系教員よりも物理科学系の教員が低く評価される
  - 5 研究と教育は表裏一体、車の両輪は嘘、研究能力(論文数)と授業評価は無関係
  - 6 年齢と共に評価が低くなる
- アメリカの報告
- 授業評価と学生の学習や到達度の間にはゆるい相関(日本では予備校で同じ傾向)



「授業についてのアンケート」総合評価の推移(全教員)

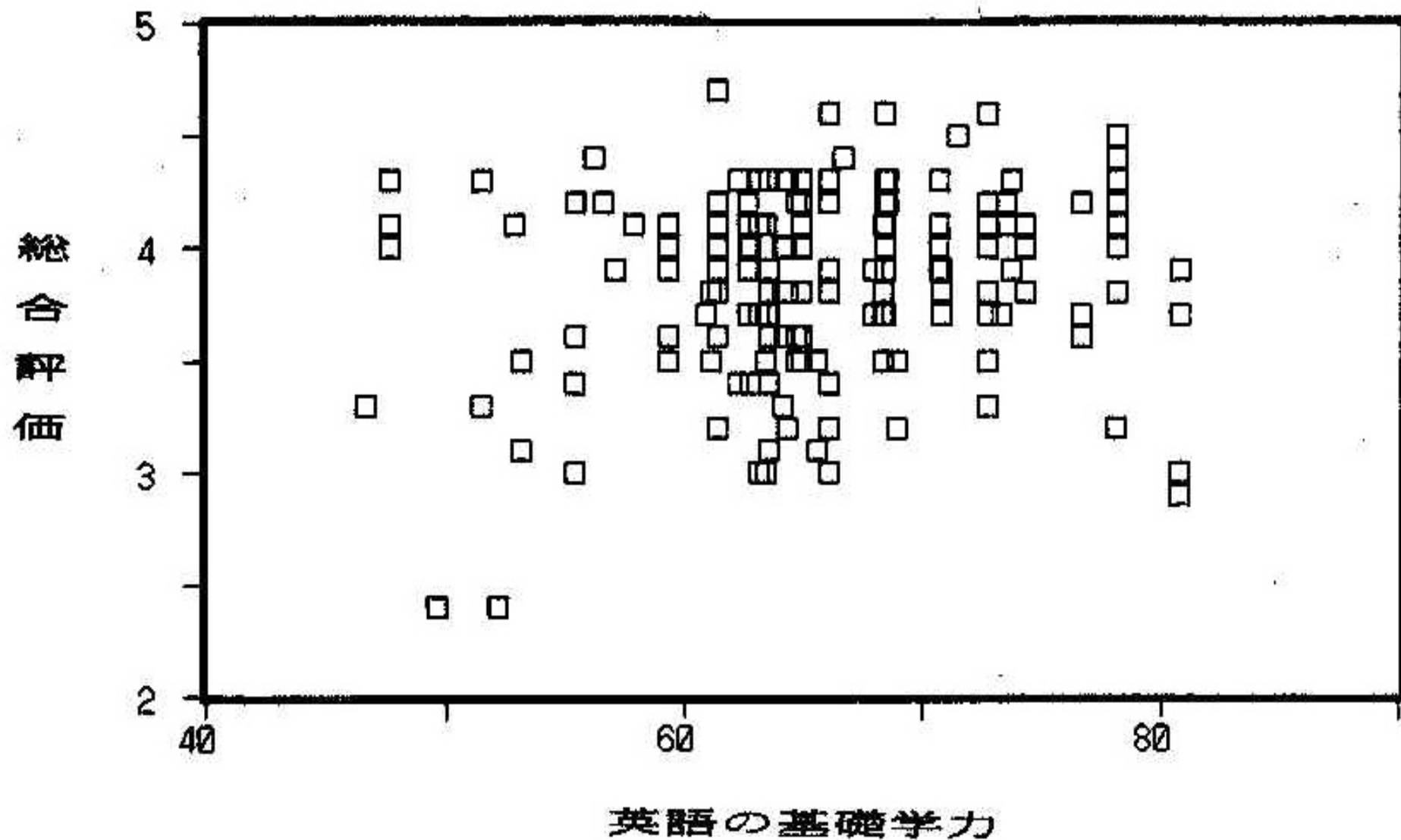


図2 英語における総合評価と英語の基礎学力の関係

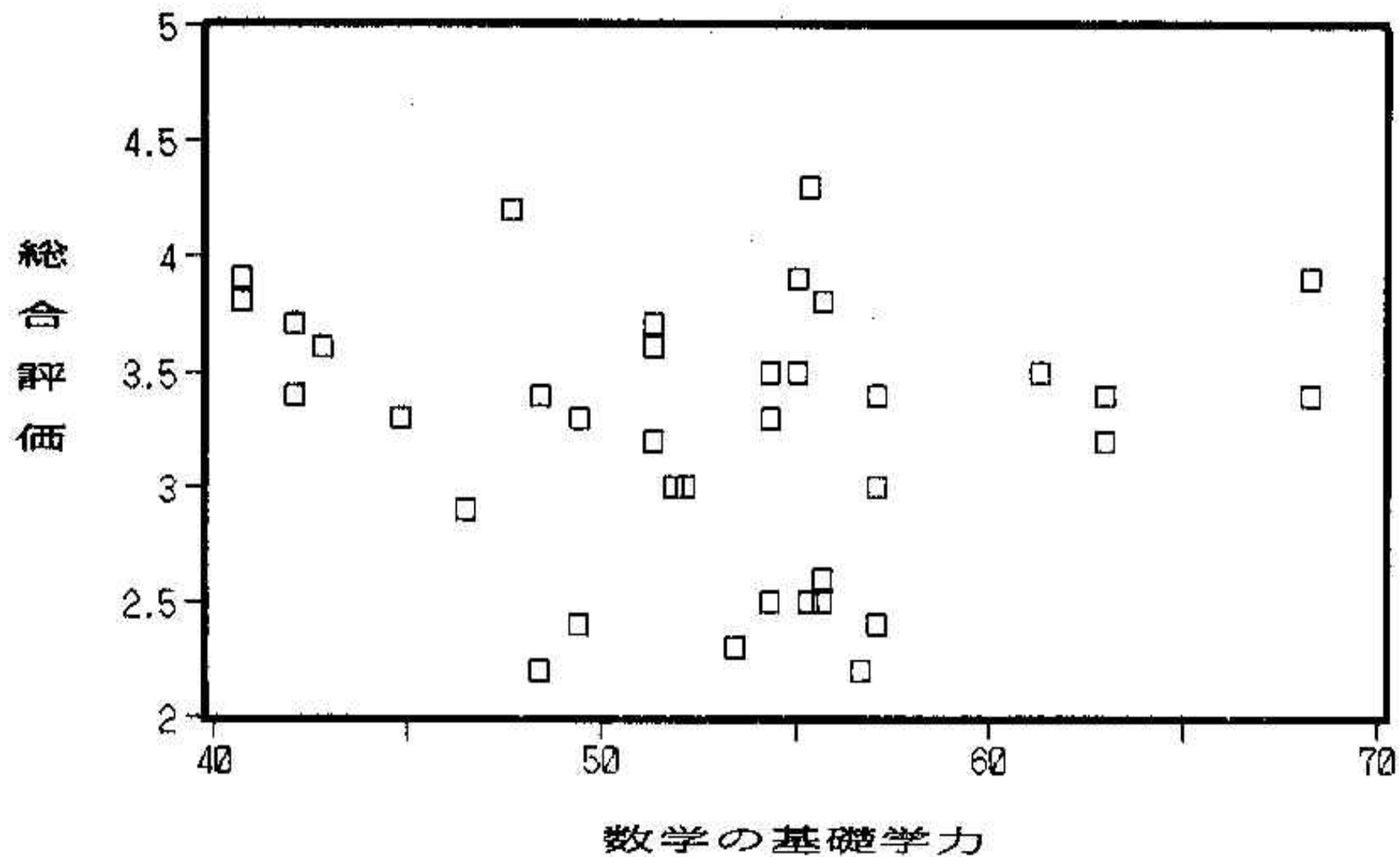
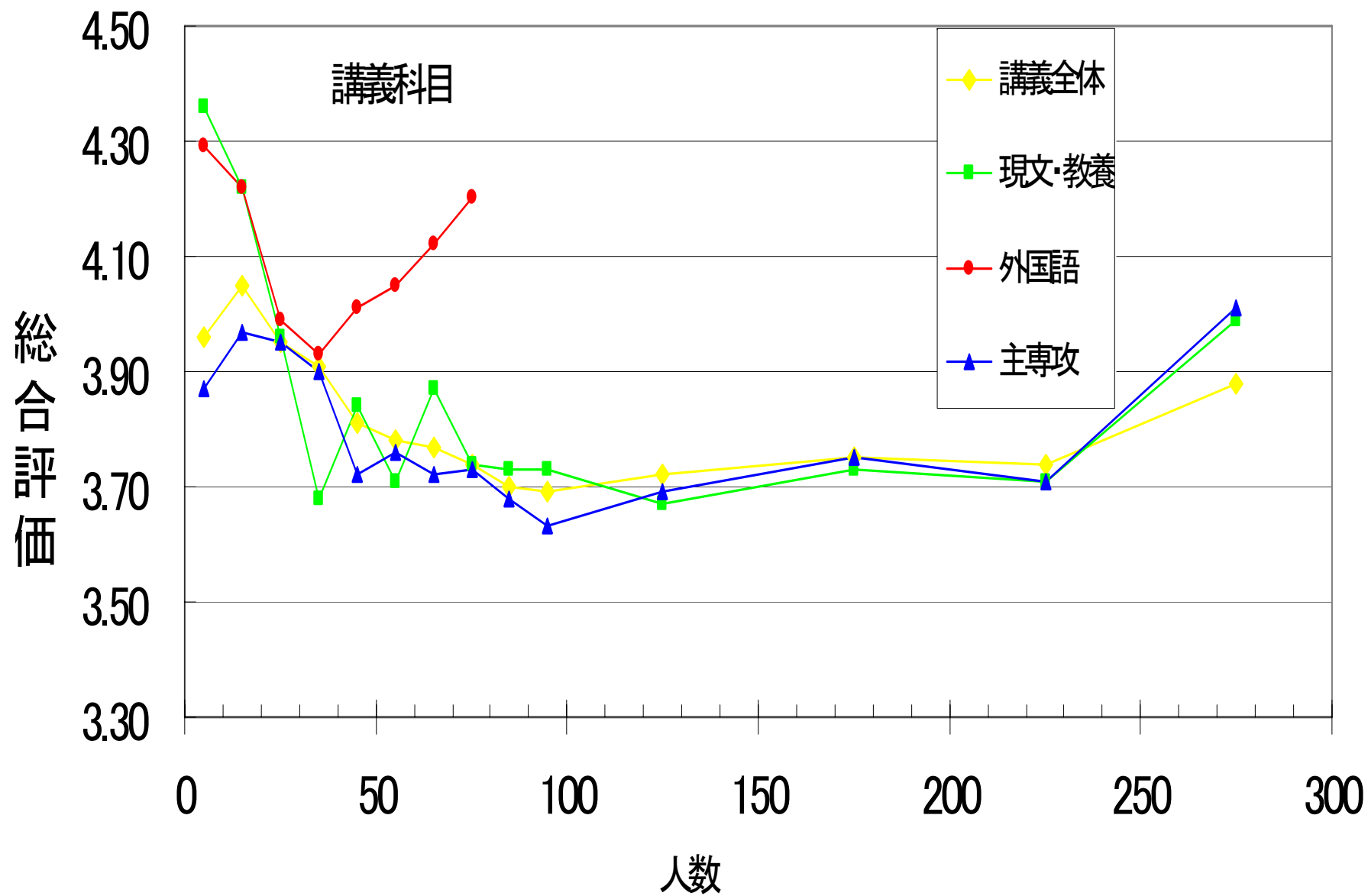


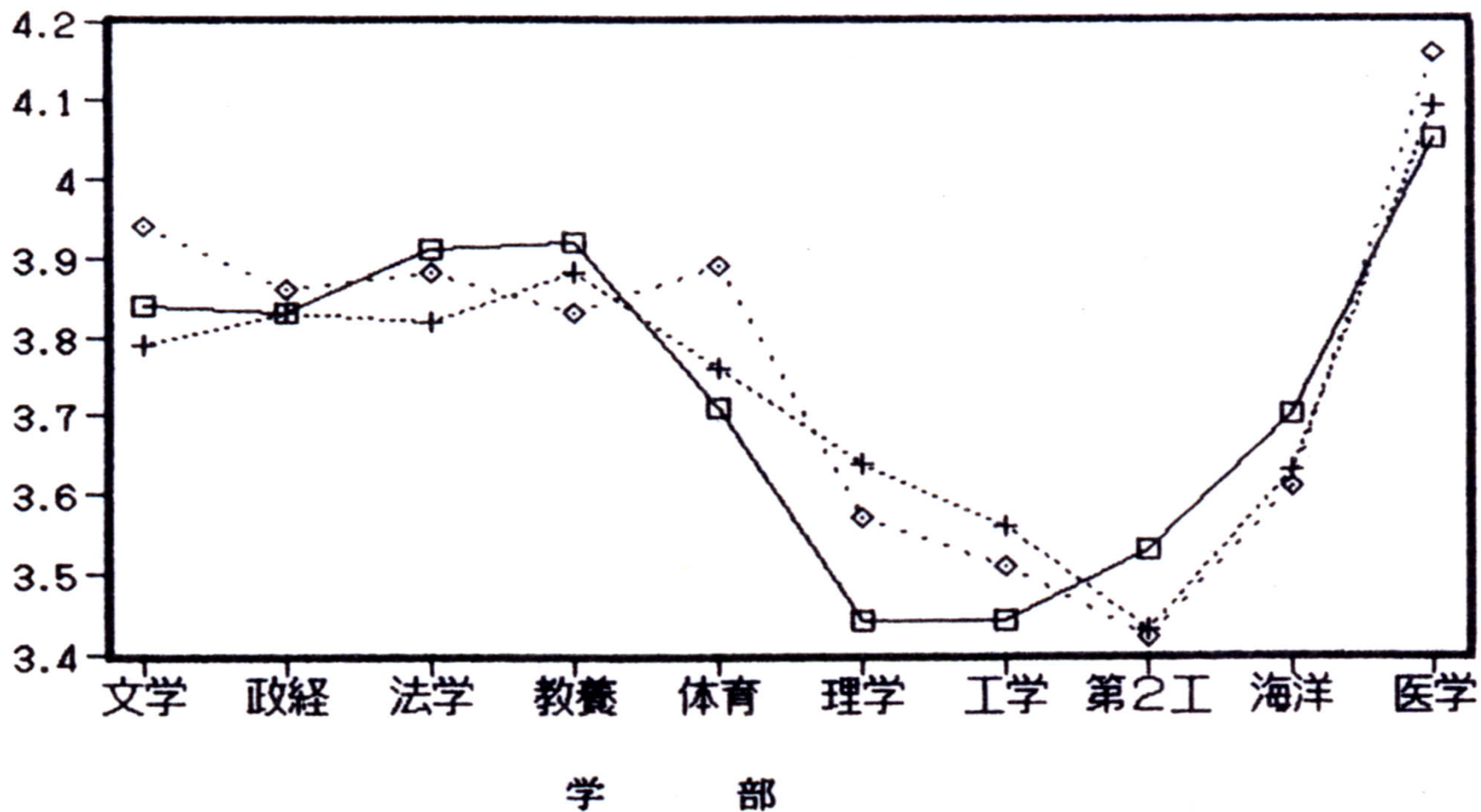
図3 微分積分学における総合評価と数学の基礎学力の関係



2001年度「授業についてのアンケート」科目区分別回答人数別評価

# 総合評価

総合評価



□ : 93年度前期

+ : 93年度後期

◇ : 94年度前期

学部開講別評価

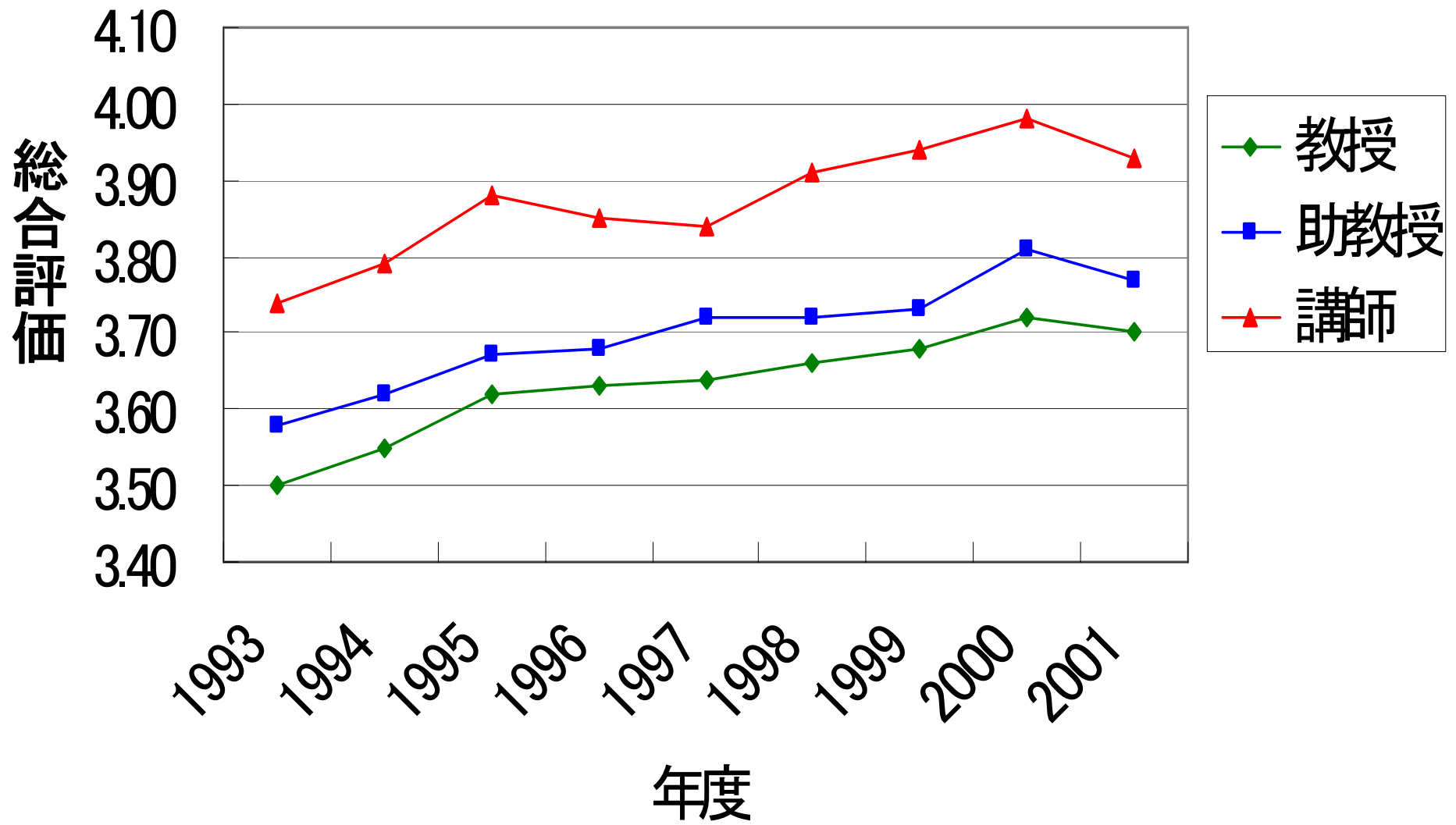
## 研究分野と論文数の関係

分野		医学	理学	工学	社会科学	文学	その他
論文数【五年間】	1						
	2						
	3		数学			語学	体育、家政学
	4	歯学				哲学	
	5		物理				
	6			機械、電気、造船	経済、心理、教育学		
	7		化学、生物学	土木	社会学	文学、史学	
	8	社会医学	応用物理、薬学		法学		
	9		地球物理、生物化学	建築			
	10		生物物理				
	11						
	12						
	13	外科、内科					
	14						
	15						

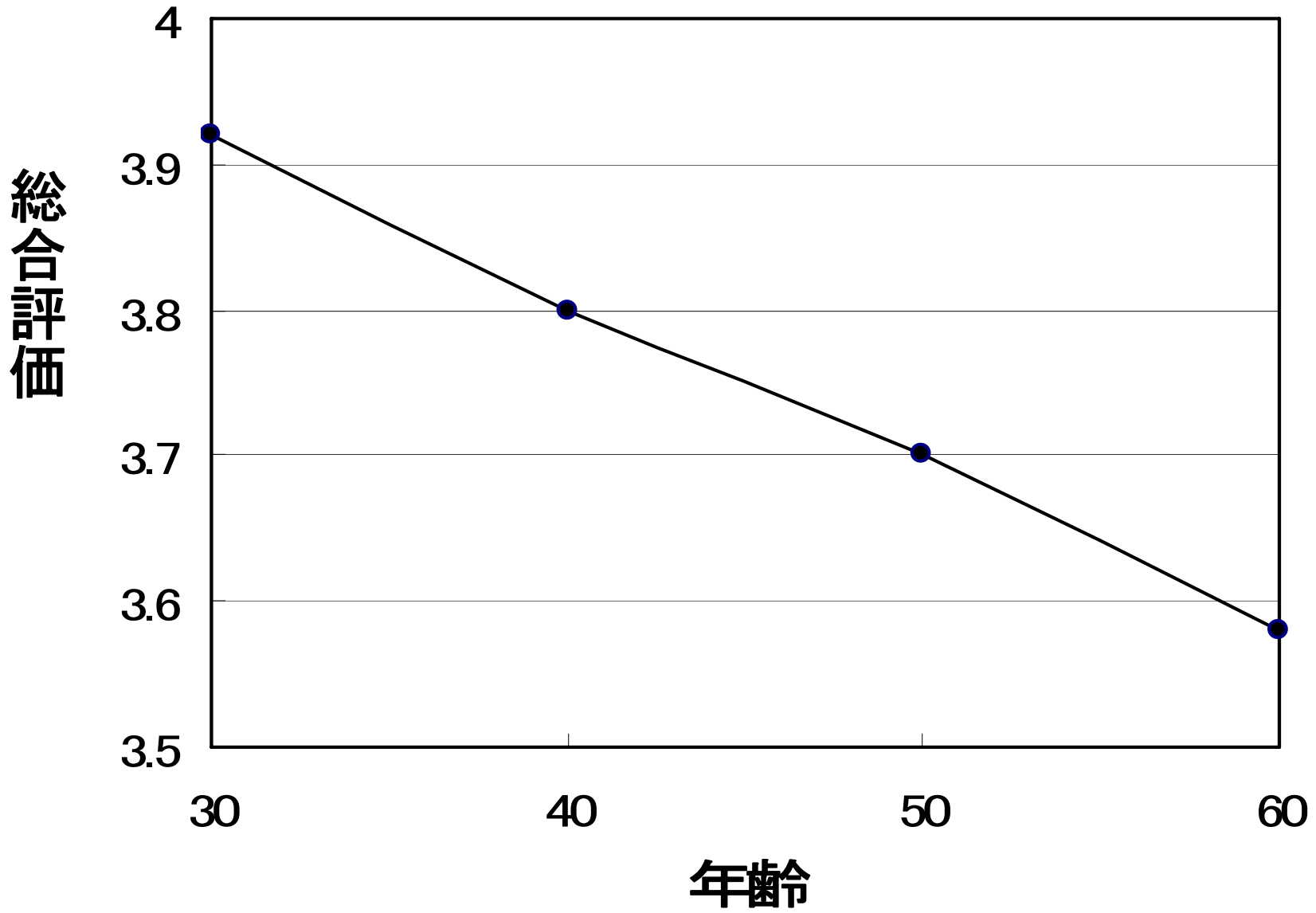


# 研究業績と授業評価の関係

科目区分	科目数		平均値	
	なし	あり	なし	あり
文系教養	261	225	3.73	3.73
理系教養	284	271	3.75	3.73
文系外国語	555	278	4.15	4.25
理系外国語	478	144	4.03	4.21
文系基礎	182	135	3.71	3.71
理系基礎	618	464	3.70	3.71
文系専門	1072	922	3.98	4.04
理系専門	2580	2790	3.73	3.73

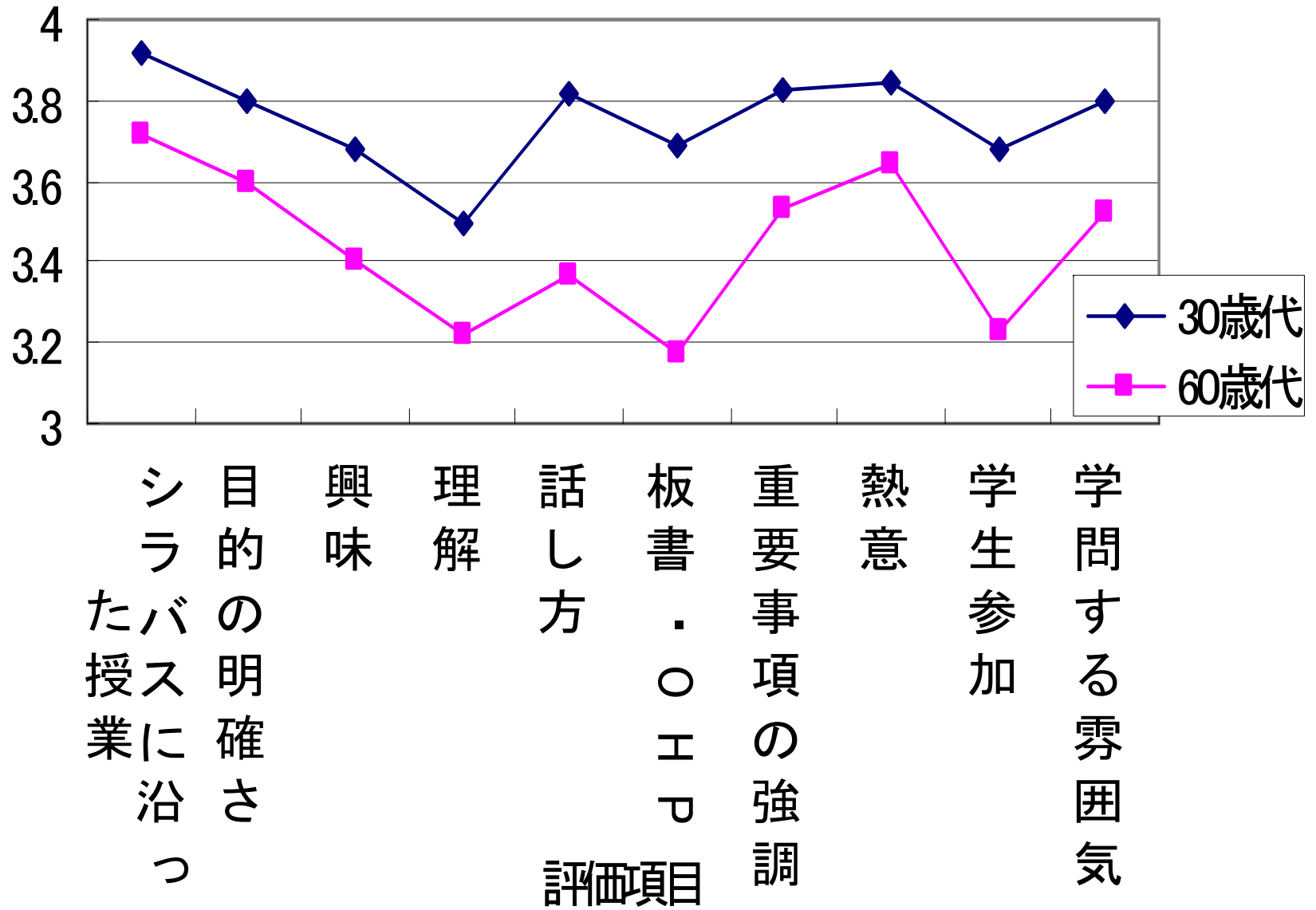


授業評価における教員身分別評価

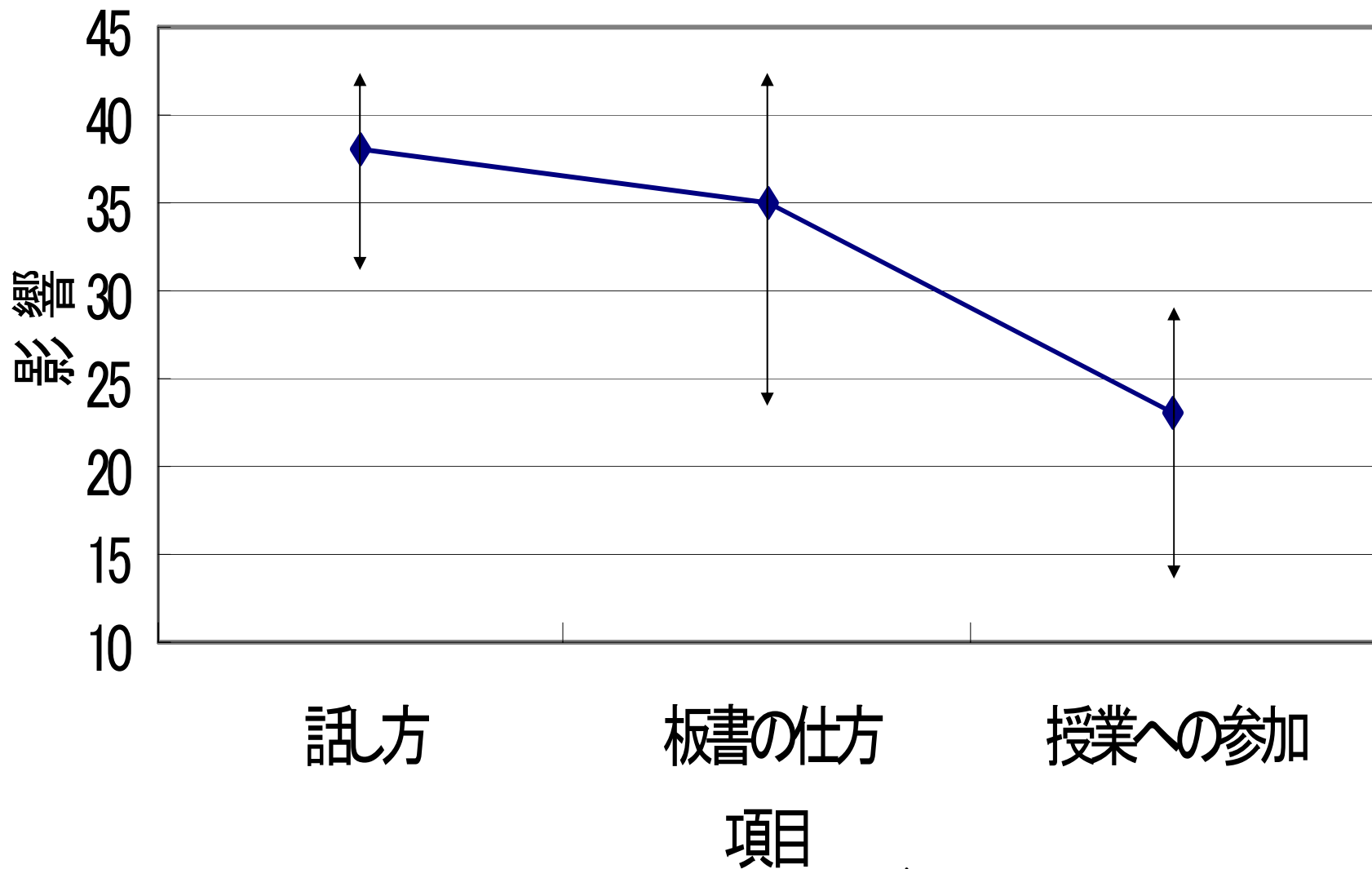


年齢別評価

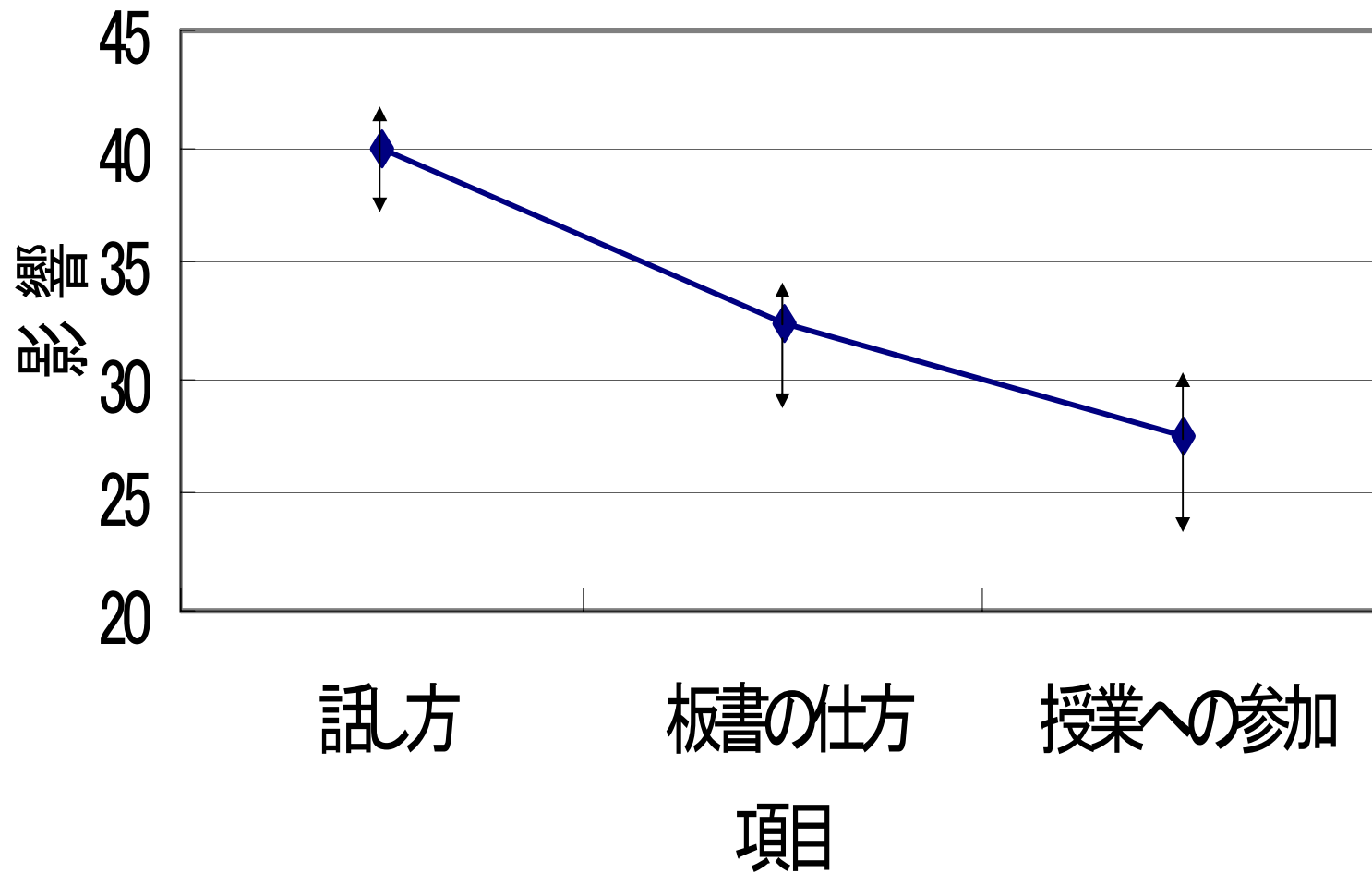
総合評価



30歳代と60歳代の評価項目毎の比較



授業評価の総合評価に及ぼす項目の影響



年齢差の大きい項目の順位

## 年齢が高くなるにしたがって、見られる傾向

理解できない言葉を多く使用する傾向がある・・・27%  
話し方が単調になる傾向がある・・・・・・・・・・23%  
同じことの繰り返しが多くなる傾向がある・・・・・・・・19%

書く量が少なすぎる傾向がある・・・・・・・・・・35%  
まとまりのない書きかたをする傾向がある・・・・18%  
早く消す傾向がある・・・・・・・・・・・・・・・・・・16%

## 「今の学生は聞いてまとめることができない」

授業は知識の伝達手段である傾向がある・・・・24%  
学生に興味を示さなくなる傾向がある・・・・・・・・17%  
質問しにくい雰囲気が強くなる・・・・・・・・・・17%

以上の結果から、授業評価の  
集団としての意見や結果は信頼  
してよい

主観も客観的評価と同様に必  
要である

達成目標によっては主観的評  
価でしか測定できないものもある





## 東海大学の教育改革(単位制度の機能化)

○卒業単位124単位(1993)

○シラバスの導入(1993)

○学生による授業評価(1993)

○セメスター制度の導入(1997)

○キャップ制度の導入(1997)

○組織的教育体制の構築(1998)

○GPA制度の導入(2001)

# 化学科一日授業外学修時間調査結果

	2000年度	2001年度
①一般教養	0.2時間	0.3時間
②外国語科目	0.4時間	0.5時間
③実験科目	2.4時間	2.2時間
④体育科目	0.04時間	0.1時間
⑤専門科目	1.1時間	1.3時間
⑥他学部・他学科	0.2時間	0.4時間
⑦その他	0.08時間	0.01時間
合計	4.4時間	4.7時間

# 自己点検・評価のあり方

- 第一に決定すべきことは:「何を実現したいのか」 **具体的目標の設定**
- 第二:目的達成に「行動目的を何にするか」 **(共通認識の決定)**
- 第三:「目的達成を何で測定するか」 **評価指標の決定**
- 第四:「評価基準」 **基準の状態を決定**